

# 子育て支援は1丁目1番地

## 中嶋あきる野市長に聞く

9月のあきる野市長選で当選した中嶋博幸市長に立候補への経過や新市長としての抱負を聞いた。市長候補は志清会で徹底的に話し合っただけで、市長選の圧勝に驚くことなく、議会との関係を重視するとして。ただ、よいと思う政策はスピード感を持って進め、1期目の4年間で公約の道筋を付けていくことに強い意欲を示した。柱となる子育て世代への支援は中嶋市政の1丁目1番地とし、「若者や新しい住民が活躍できるまちづくり」は、地域に活力を与え、未来へのびしろがある取り組みとした。一方、村木前市長が推進した介護老人福祉施設は白紙にした。財政再建では企業誘致にしっかりと取り組んでいく姿勢を示した。11月16日、あきる野市役所で。

して来た志清会には対立候補を速やかに擁立する使命があった。候補選びで会を割ってはいけないし、全員で徹底的に話し合った。その結果、私に託してもいいと思うようになった。二代表制のルールを理解しようとせ



抱負を語る中嶋新市長

# 企業誘致に全力 民間主導でメリハリも

市長選への立候補の理由と経過は。中嶋 あきる野市政に1日も早く安定を取

度、不信決議を受けた。それでも市長選に立候補した。最大会派で、村木前市長と対峙

村木前市長は市長公用車を廃止したり、市長退任時の退職金を特別で受け取らなかった。市長選に立候補し

た共産党の数野一氏は「自公政治が変われば市政がどう変わるかと、感動した」と話した。中嶋市長はいずれも復活した。復活して当然のことだが、改めてそ

の理由は。また、こうした例を見ても、そもそも共産党や市民連合と自公の考え方は違うので議論はかみ合わないと思うが、どうか。中嶋 市長公用車は

## 地域社会の足になりたい

あきる野市を拠点に西多摩を主な営業エリアにしている横川観光。現社長の山口和彦氏が2014年、前身の横川交通の事業を継承する形で設立。過疎化と高齢化が進むなか、10台のタクシーでスタートした。「父は50歳を目前に経営者の道へ進んだ。拝島高校を卒業後、昭島市内のタクシース会社やホテルに勤務。その後、あきる野市の『瀨

秋川交通の経営を引き受けたのも人々の移動手段を守るという決断だったのだろう」1993年生まれの拳人氏は、帝京科学大学で学び、理学療法士の国家資格を持つ。卒業後は都立神経病院(現都立多摩総合医療センター)で活躍していたが、今年5月、父の仕事を補佐するために

「多様な利用者のニーズに応えるのが当社の責任。その意味で、父が車イスで乗れるユニバーサルデザインのUDカーを導入したのは慧眼だったと思う。観光向けには9人乗りジャンボタクシー

「掲げた理念は、地域の皆様の足になる」というもの。そこには父の人のためになり、社会に役立ちたいとの発想があったはず。2年ほど前当社よりも規模の大きい

「父は50歳を目前に経営者の道へ進んだ。拝島高校を卒業後、昭島市内のタクシース会社やホテルに勤務。その後、あきる野市の『瀨

### 横川観光 山口拳人氏



横川観光に入社した。医療現場での体験を生かしながら家業と向き合う日々だ。



父の背中 ■ 33 ■ 先代の仕事と教え

「掲げた理念は、地域の皆様の足になる」というもの。そこには父の人のためになり、社会に役立ちたいとの発想があったはず。2年ほど前当社よりも規模の大きい

「掲げた理念は、地域の皆様の足になる」というもの。そこには父の人のためになり、社会に役立ちたいとの発想があったはず。2年ほど前当社よりも規模の大きい

**黒茶屋**  
あきる野市小中野167  
☎042-596-0129  
令和4年12月の営業  
<月曜日を除く全日>  
ご昼食(11時~15時受付)  
ご夕食(前日迄のご予約制) (17時~19時受付・21時閉店)  
<月曜日>  
ご昼食のみの営業(11時~15時受付)  
定休日:毎週火曜日、および水曜日は不定休 第5週は26日と29日の2日間営業

**晴の庵**  
あきる野市小川633 ☎042-559-8080  
令和4年12月の営業  
<月曜日を除く全日> ご昼食(11時~15時受付)  
ご夕食(前日迄のご予約制) (17時~19時受付・21時閉店)  
<月曜日> ご昼食のみの営業(11時~15時受付)  
定休日:毎週火曜日、および水曜日は不定休

**井中居**  
青梅市藤橋2-32  
☎0428-30-1661  
令和4年12月の営業  
<月曜日を除く全日>  
ご昼食(11時~15時受付)  
ご夕食(前日迄のご予約制) (17時~19時受付・21時閉店)  
<月曜日>  
ご昼食のみの営業(11時~15時受付)  
定休日:毎週火曜日、および水曜日は不定休  
お越しの際はホームページが電話でご確認ください。



# 介護老人福祉施設建設は白紙

## 下水道費用対効果考え整備

人もいなくなる。

すっかり仕事で返すということだと思っ。どこかの議会で居眠りしたり、他の議員の質疑の間にインターネッを見ていたように、報酬への批判は出るだろうが、それはごく一部と信じたい。市長の仕事は激務だということも多くは分かっていてと思う。

中嶋 そう思ってもあらた有難いし、いずれにしても頑張りた

い。「議長としていろいろな意見を聞き、議会を運営してきた経験をいかして安定した市政を築いていきたい」と言

ったが、市長を支持する志清会と公明党で議席の3分の2を持つ、思い切った政策を進められるのではないか。

中嶋 市長選では1万8600票をいただき勝利させてもらった。自公の議員さんがしっかりと自身の牙城を

守ってくれ、ミニ集会

を各地で開かせてもらったのが大きかった。市長選では私への期待と併せて、村木市政への反発による支持が集まった面もあったと思う。解散市議選で、自公で3分の2の議席を取らせてもらったのは現実の結果だが、謙虚に驕ることなく市政を進めたい。ただ、政策を推進しやすい構図と

なっているのは確か

で、市や市民にとってよいと思う政策はスピード感を持って推進したい。決めるべきことは決めていきたい。

選挙公約の柱に「子育て世代を全力で支援する」ことを掲げた。「若者や新しい人が活躍できる街づくり」とは具体像があるか。

中嶋 所得制限なしの高校生までの医療費無償化を選挙公約にした。これは中嶋市政の1丁目1番地となる「子育て世代を全力で

支援する」との意思を

象徴したもので、しっかり取り組みたい。ただ、こうした施策だけで子育て世代が移住してくるといふ簡単なものではない。地方の様々な市町村が地域の良さを前面に出し、移住者を呼び込むことに苦労する中、首都圏に立地するあきる野市は、都心からの移住希望者が目を向けやすい環境にあると思っ

ている。地の利を生かし、子育てしやすい施策を充実し、あきる野市の

よい所を伸ばし、市の魅力をこれまで以上に発信していきたい。明

石市は、若い人が流入すれば、財政などいろいろな面がプラスに転じることを実証した。「若者や新しい人が活躍できる街づくり」は地域に活力を与え、未来にのびしろがある取り組みだと感じている。

村木前市長と市議会との対立の発端となった新たな介護老人福祉施設の建設についての考えと、団塊世代が後期高齢者となり高齢者



市長選では数多くのミニ集会、個人演説会を開き、ひざ詰めで公約を語り、意見に耳を傾けた

中嶋 介護老人福祉施設の建設について

は、基本的には市議会の特別委員会で議論をし、全会一致で白紙になった。今は特別養護老人ホームなどへの入居は条件を付けなければ、ほぼ待たなくても入居できるようになっている。

特別養護老人ホームに入れないというのは昔の話か。

中嶋 各自治体間の連携も取れており、待たなくてもほぼ入居できる状態になってい

る。入居待機者よりもマンパワーが足りないことが課題だ。各施設が苦勞しているところでも目を配っていき

中嶋 介護老人福祉

施設への負担が増す中、今後の高齢者福祉政策については。

あきる野市の財政は引き続き、良い数字ではない。財政再建へ決

意は。新たな企業誘致、地域経済対策、身を切る行政改革についての考えは。

中嶋 企業誘致は大変大事だと思っている。民間主導で開発すべきところはできる限り進めるべきだと思

中嶋 下水道に対し

の考え方について市民と向き合っ話さないといけない場面もあるかもしれない。というの、あきる野市は起債が多いと言われているが、多くを占めるのが下水道整備にか

かるもの。あきる野市を含め山間地域が多い西多摩は下水道整備で重い財政負担を強い

られている地域だと感じている。本来なら下水道の維持管理は使用料で成り立つのが基本だが、多くの山間地域、調整区域を抱える自治体にとっては非常に非効率で、整備にも維持管理にも経費がかかる。市長になり、都内東部の市長と話をすると、他の自治体は下水道の維持管理に負担などまったく感じていないことが分かった。

残念ながら未整備地区が残るあきる野市は膨大な維持管理費用を含め、費用対効果を考えたいと思っている。目をそむけず、そうした正直なところを市民に話したい。

中嶋 観光客が来た

時の受皿とセットで発信していくことが大事だと思っ。秋川渓谷の清流、紅葉がきれいですよというだけでは来ない。具体的にどういう施設があっ、何ができて、価格はどのくらいかなどが分かるように発信してい

か。それはいかに利用し付加価値を付けられるかに限る。インバウンドへの期待が再び高まるが、具体的なサービスをつくり、その情報を発信していくかが勝負になると思っ。しっかりと滞在してお金を落としてもらっ基盤づくりと、具体的な情報を発信していくという両軸をしっかりと機能させていきたい。

西多摩地域広域行政圏協議会が来年度で設立40周年を迎える。広域行政についての考えと、今さら感もあるが、

本来なら議論すべき秋川流域の合併についてはどう思っか。

中嶋 合併の考えは

ないが、広域で協力し合えるところはすべきだ。特に観光は1つの行政でできるものではなく、西多摩で一層協力し合っいくべきだ。また、公共交通の充実も効率を考え、行政間で連携していか

な。中嶋 登録率は45%で、都の自治体の中では遅れている。マ

イナンバーカードは行政のデジタル化を進める上で基本中の基本となるもので、登録率を高めていかないと行政のデジタル化は進まない。市民に協力をいただき登録率を飛躍的に高めていきたい。庁内には8人体制の情報政策課も設けられ、IT、AI時代の地方自治への対応を図っている。

調和とダイナミズムに満ちた中嶋市政の展開を期待したい。お忙しい中ありがとうございました。

### 観光は具体的なサービスづくり、情報発信 行政のデジタル化を推進、マイナ登録は推進

水道の維持管理は使用料で成り立つのが基本だが、多くの山間地域、調整区域を抱える自治体にとっては非常に非効率で、整備にも維持管理にも経費がかかる。市長になり、都内東部の市長と話をすると、他の自治体は下水道の維持管理に負担などまったく感じていないことが分かった。残念ながら未整備地区が残るあきる野市は膨大な維持管理費用を含め、費用対効果を考えたいと思っている。目をそむけず、そうした正直なところを市民に話したい。

中嶋 残り整備の難易度が高い所が残っている。工事効率が悪い所だ。下水道を通すのか、合併浄化槽を選択するのか、しっかりと状況を把握し、住民とよく話し合っ計画を進めていきたい。また、公共施設の合理化、統廃合も進めていかなければならない課題となっている。

地方議員から首長、都議、代議士まで「西多摩は観光立国」と掛け声は上がるが、具体的な策は皆無だ。あきる野市の観光施策については。

中嶋 観光客が来た時の受皿とセットで発信していくことが大事だと思っ。秋川渓谷の清流、紅葉がきれいですよというだけでは来ない。具体的にどういう施設があっ、何ができて、価格はどのくらいかなどが分かるように発信してい

か。それはいかに利用し付加価値を付けられるかに限る。インバウンドへの期待が再び高まるが、具体的なサービスをつくり、その情報を発信していくかが勝負になると思っ。しっかりと滞在してお金を落としてもらっ基盤づくりと、具体的な情報を発信していくという両軸をしっかりと機能させていきたい。

西多摩地域広域行政圏協議会が来年度で設立40周年を迎える。広域行政についての考えと、今さら感もあるが、本来なら議論すべき秋川流域の合併についてはどう思っか。

中嶋 合併の考えはないが、広域で協力し合えるところはすべきだ。特に観光は1つの行政でできるものではなく、西多摩で一層協力し合っいくべきだ。また、公共交通の充実も効率を考え、行政間で連携していか

な。中嶋 登録率は45%で、都の自治体の中では遅れている。マイナンバーカードは行政のデジタル化を進める上で基本中の基本となるもので、登録率を高めていかないと行政のデジタル化は進まない。市民に協力をいただき登録率を飛躍的に高めていきたい。庁内には8人体制の情報政策課も設けられ、IT、AI時代の地方自治への対応を図っている。

調和とダイナミズムに満ちた中嶋市政の展開を期待したい。お忙しい中ありがとうございました。